

2024年
海外トピックス
韓国

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

犬肉食用禁止法が採択

1月9日、韓国国会は「犬の食用目的の飼育・屠殺・流通等終息に関する特別法案」（以下、「犬食用禁止法」）を通過させた。3年間の猶予期間を設けたうえで、2027年から施行されることとなる。法律には、食用目的で犬を屠殺した場合、3年以下の懲役または3,000万ウォン（約330万円）以下の罰金、食用目的で犬を飼育、繁殖、あるいは流通させた場合は、2年以下の懲役または2,000万ウォン（約220万円）以下の罰金というように、かなり厳しい罰則が規定されている。

広く知られていることかと思うが、韓国では犬肉を食べる習慣がある。いや、あった、と言うべきかもしれない。試しに事務所のスタッフ2人に聞いてみると、「幼いころ、親から食べさせられたことがあったが、正直、ほとんど記憶がない。それ以降、1度も食べてない」と2人から同じ回答が返ってきた。実際、BBCのアンケートによると、過去1年間で犬肉を食べたことがある人は、8%だったとのことだが、この様子ではそれも高齢層に限られる話だろう。私自身は17年前に韓国で一度、「補身湯（ポシントン）」と呼ばれる犬肉の鍋料理を会食の席で食べたことがある。牛肉と比べると犬肉には臭みがあるので香草などとともに食べるのだが、独特の癖のある味であまり好きにはなれなかった。若い人たちには犬はペットという認識があり、その点、日本人と感覚は変わらない。だから多くの韓国民にとって、犬肉を食べることは「感情的に受け入れられない」という部分も大きいだろう。

一方で、食用の犬肉を取扱ってきた業者にとって、この新たな法案はとんでもないことである。韓国における犬肉の法的な取扱い、これまでグレーゾーンと言える状況であった。犬は元来、畜産法と畜産物加工処理法（現・畜産物衛生管理法）上では牛や豚同様に「家畜」と規定されていたが、1978年に動物保護団体などの反発もあり、畜産物加工処理法上の「家畜」から除外された。このため、家畜の飼育・屠殺・加工・流通などの手続きが明確に定められていない、「家畜」としての犬（畜産法上）が誕生してしまった。しかしその後も、ソウル市が1984年に市内全域で販売禁止にするなど、オリンピック開催などの大きな世界的行事に対応するため、度々、取り締まりが強化されてきていた。それでも、法律で完全に禁止されることはなく、京畿道や釜山の市場は閉鎖されたが、韓国南部の大邱（テグ）にはまだ犬肉専用の市場が残っているという。今回の法律が施行されれば、農家の立場で個人投資により営業してきた小規模個人事業主が営業できなくなるわけだが、まだ損害補償などの話は出ていない。この点は今後の議論が必要となるところだろう。反面、犬食に関する流通等の業は禁止されたとはいえ、個人が犬食をすることまで禁じたわけではないため、「闇ルート」のような形で、法の隙間を縫って生き残ろうとする業者も出てくるのではないかと指摘されている。動物愛護の観点から言えば、食用として飼育され、残された犬たちの運命も案じられる。課題は山積するが、法が施行されるまでの3年の間で、徐々に決着をつけていくことになるのだろう。現実に消えつつある韓国の伝統食が、より一層消滅に近づいている。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

静岡ー仁川 1月から夏ダイヤの発売開始～航空会社聞いてみた～

仁川国際空港から富士山静岡空港に定期便を飛ばしている韓国のチェジュ航空は、1月10日から夏ダイヤ（3月末から10月末）の航空券を発売開始した。チェジュ航空は毎年この時期に夏ダイヤの商品販売を「チム特価」という名称で特価セールをしながら開始する。昨年の平均搭乗率が約84%と好調だったこともあり、冬ダイヤ（10月末～3月末）に引き続き、週7日のデイリー運航で売り出されたのは嬉しいことだ。

「御社の日本路線の中で比較的搭乗率が低く苦戦していると聞いた路線が2デイリー（週14便）になったので不思議に思ったのですが、どんな理由ですか？」と。

様々な理由が背景にあるのだろうが、航空会社としての明確な理由が二つあった。1点目は単純に収益性、2点目は私たちも既によく承知の話であるが、「グランドハンドリング」といって、空港の地上で勤務する職員が日本で全国的に不足している中、当該路線では対応できたことだ。

グランドハンドリングには、色々な仕事がある。滑走路でランプの仕事をする人や、荷物を運ぶ人、受付など搭乗にまつわる仕事をする人、清掃をする人などその仕事も多岐に渡るし人数も必要になる。関係者によると、1機の着陸に対応するために、併せて20人以上もスタッフが必要になるそうだ。コロナの影響で辞めてしまった人も多く、また給与や勤務場所、福利厚生、さらには採用したとしてもその後の研修など、様々な面で課題があり、簡単に増員できる話ではないようだ。

また、航空会社は収益性とコストの詳細には触れておらず、搭乗率が黒字になるかどうかのボーダーラインは路線によって異なる部分もあるだろうが、大きく収益性に影響する部分としては、当然ながら距離があるだろう。距離＝コストとは言い切れないものの、距離によって燃料費などのコストが大きく変わるため、距離が収益性に与える影響が大きく、韓国から距離の近い都市への路線のほうがコストを抑えて運航できる。距離や所要時間が収益性に及ぼす影響は、かなり大きいのだろうと感じた。

ただ、便が増えれば、利用しやすくなる一方、搭乗率は多少下がることになるだろう。それでも収益があげられる保証があるから飛ばすということだ。韓国においても、中国路線の利用が安定しない一方、日本路線は好調が続いている。静岡路線も今年3月26日で運航再開1周年となる。今後、静岡空港で働きたいと思う県民が増えてくれればうれしいところである。ソウルで活動する当事務所は、静岡に多くのお客様が訪れてくれるよう、韓国で静岡の旅の魅力を様々な形でプロモーションするためのコンテンツを準備している。今後も静岡ー仁川路線の好調が続くよう願っている。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

政治

仁義なき戦い「公薦（コンチョン）」―4月10日は国会議員総選挙

先日、某セミナーでNHKソウル支局長を務める青木良行氏の講演を拝聴した。テーマは4月10日投開票の国会議員総選挙。青木氏はお仕事柄、ニュースや政治番組を毎日チェックしているとのことで、今回の選挙戦のニュースで飛び交う独特な言葉に注目すると面白いと教えていただいた。いくつかの単語とともに、二大政党の公認候補選び（公薦）の話題を紹介する。

韓国の国会議員を眺めてみると、多選の議員が少ないことに気づく。日本に当選10回以上の議員がいるのと比べると、韓国は多くても5選程度。1期や2期の議員が多い。日本と比べ、地盤よりも党本部の力が強く、日本では落下傘と言われるような、全く異なる選挙区に当選議員が送り込まれることが当たり前のようにある。1月まで外交部長官を務めていた朴振（パク・ジン）氏が一番わかりやすい例だ。彼は現在、ソウル市江南（カンナム）区乙選出の国会議員であるが、4年前の選挙で急に経済の中心地・江南に送りこまれた。元々は政治・行政の中心であるソウル市鍾路（チョンノ）区で3選した人物で、一度国会議員を引退していたにも関わらずだ。今回の外交部長官退任後は江南区乙での再選を目指し、党の公認を想定し江南区の有権者との交流を深めていたが、2月、突如、西大門（ソデムン）区乙での公認が決定した。

朴振氏を含む与党側のニュースでよく出る話が「親尹（チニョン）」（尹大統領の近くにいる人材）は「陽地（ヤンジ）」、長官経験者や「非尹（ピユン）」は「陰地（ホムジ）」という話だ。陽地とは比較的楽な選挙区、陰地は逆に難しい区を指す。経験が少ないが大統領に近い人は楽な選挙区で公認を受け、選挙に強い人材や大統領とやや距離がある人材は難しい場所に送り込まれているというのだ。実際、朴振氏は選挙に強い実績を持つが、西大門区乙は低所得者層も多く、保守系（与党）よりも革新系（野党）が強いエリアで、現職議員は革新系の「共に民主党」である。前任の長官が再び選挙区を変え、難しい戦いを強いられることになる。日韓関係の改善に貢献した朴振氏は日本語も大変流暢で、静岡県への愛情も深い。当選に期待し注目したい。

最大野党であり現在国会の第一党「共に民主党」で飛び交うのは、「非明」「親明」という言葉だ。「明」は党首・李在明（イ・ジェミョン）氏を指し、彼の側の人間か、そうでないかを表す言葉となっている。現在、2大政党の候補者がほぼ出そろったが、野党は「親明」ばかりが公認を得ており、「非明」人材から大きな不満が出ている。院内代表も務めた4選の洪永杓（ホン・ヨンピョ）氏など多選の有名議員も公認を得られず、離党するケースが相次いでおり、「公認虐殺」との怒号も渦巻く現在、与党よりも支持率が下がっている。ただ、毎回直前までよくわからないのが韓国の選挙。第三党の動きも含め、注目してみると面白い。

経済

韓国レンタカー予約ポータル「Carmore」のYouTubeサイトで静岡県をPR

韓国のレンタカー予約ポータル「Carmore」が運営するYouTubeチャンネルの撮影が2月、県内で行われた。富士山静岡空港からレンタカーを借りて県内を回る韓国人も増えている中、同社と当所で企画した。あいにくの天気で富士山は辛うじて見える程度だったが、女性社員3名がレンタカーを運転しながら、狩野川沿いの河津桜、函南町の伊豆わさびミュージアムとゲートウェイ函南などを訪れつつ、富士宮市でグランピングを楽しむ様子を撮影した。是非、QRコードから御覧いただきたい。



韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

政 治

国会議員総選挙～選挙活動最終日の様子～

4月10日に韓国では国会議員総選挙が行われた。結果は既に報道されているとおり、与党「国民の力」が惨敗し、元々過半数を上回っていた最大野党の「共に民主党」がさらに議席を増やした。

日本も同じだが、投票前日は各党の代表や候補者が最後の遊説に駆け回り、声を枯らす。私は9日夕方、これまでの地盤とは異なるソウル市の西大門乙（ソデムンウル）の選挙区で立候補し、今回結果的に敗れてしまった朴振（パク・ジン）候補（前外交部長官）の仁王（イヌアン）市場前での演説を聴いてきた。

朴振候補はFacebookなどのSNSで毎日の選挙活動スケジュールを公開しており、演説予定の18:00に合わせ会場に到着すると、すでに大勢の人が集まっていた。しかし、本人はまだいない。マイクで話す応援者がいて、歌や音楽に合わせて踊って盛り上げる若者が多数。日本とは全然違う選挙活動のスタイルに圧倒される。集まった聴衆は市場の街に似合う年配の方々が多かった。

韓国は選挙投票時、投票用紙には、番号、党名、氏名が書かれており、自分が投票したい人のチェックボックスに投票所においてある投票用判子を押して投票する。したがって、どの候補者も番号を強調する。

朴振候補の所属する「国民の力」は2番。それゆえ、「2番」、「朴振」を強調した替え歌や演説が鳴り響く。「♪2番2番2番、とっても好きです～」という感じだ。なかなか面白い。

30分ほど経ったところで朴振候補は、スクーターに乗って登場。会場は「パク！ジン！パク！ジン！」の声に包まれる。隣の選挙区で共に戦う同党の李容鎬（イ・ヨンホ）候補と2人して選手カーのステージ上に上がった。

朴振候補は実績やネットワークをもとに、当該地域の商圈拡大、教育水準の引き上げ、江南エリアとの高速鉄道による交通時間短縮化など、比較的開発が遅れているこの地を発展させるプランを述べた。歌の上手い朴振候補は選挙ソングも自ら歌った。韓国らしい、コンサートのような、お祭り騒ぎの選挙戦に明かるい気持ちになる。

あたりが暗くなってきた頃到着したのは、韓東勲（ハン・ドンフン）「国民の力」非常対策委員長だ。いわば選対委員長であり、昨年12月から党代表が空席となっている中で、実質、党代表と言える人物だ。共に民主党の李在明（イ・ジェミョン）代表と舌鋒を交わし、人気を集めた彼は、この日、最後の応援演説のため、走り回っていた。

2人の候補者の手を取り、高々と掲げると、会場からは「ハン！ドン！フン！」の大合唱。応援を終えると、急足で最後の遊説場所である清溪広場に向かった。対する共に民主党の李在明（イ・ジェミョン）代表は、尹大統領の大統領府がある龍山で最終演説を行った。

2月までは国民の力が優勢であったが、3月に入り、文在寅（ムン・ジェイン）前大統領時代に法務部長官を務めた曹国（チョ・グク）氏が代表を務める「祖国革新党」が誕生し尹大統領への圧力を強めると、これに共に民主党が同調。これまで李在明VS韓東勲、共に民主党VS国民の力、という印象だったものが、尹大統領の実績中間審判の様相を呈し、共に民主党が有利となり、国民の力が苦しくなった。結局、最後までそれを覆せなかった与党は、首都圏で惨敗を喫した。今回の選挙結果が日韓関係へ悪影響を及ぼすということはないと思っているが、野党勢力の圧力と大統領のかじ取りにこれからも注目していく必要がある。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

行政

韓国の大学における講義 -静岡県の観光と食-

韓国は日本と異なり、3月から学校が始まる。早速、4月に入り、韓国の2つの大学の授業において静岡県の紹介を行った。

4月8日は、ソウル市北部の祥明（サンミョン）大学の韓日文化コンテンツ学科の授業だ。日韓に関するコンテンツをテーマにしており、実は昨秋にも授業への参画協力を依頼され、その時は、日韓の地方都市をテーマにしたインスタグラムでのコンテンツ発信を評価コメントするというものだった。新年度になる今回は、5人1チームに分かれ、日本の地方のウェブサイトを作成するというテーマである。県内への誘客を始め、情報コンテンツの発信はまさに当所が行っている事業の中心でもあるから、県内の観光情報等、その辺りの説明は十八番である。一方、大学の授業なので、自らが悩みながら考え、失敗も含めて製作することそのものが大事である。そこで、あまり余計なことは言わず、「コンテンツ」となるべき静岡県の魅力、特に観光コンテンツのみを紹介することにした。静岡県を担当する学生が、この後どのようなコンセプトでウェブサイトを作成するのか、楽しみである。

一方、17日は京畿道華城市にある水原大学において、2回の講義を行った。こちらは世界の食文化をテーマにした授業であり、学部学科の垣根を乗り越え、様々な専攻の学生が聴講に来ていた。ふじのくに茶の都ミュージアムの客員研究員で静岡市出身の長田幸子教授（食品産業学）が担当する授業の一環で、静岡県のわさびを中心に、茶、みかん、キンメダイなどについて、アニメ「ゆるキャン△」や伊豆半島ジオパーク、徳川家康などの歴史の話も絡めつつ紹介させていただいた。わさびについては、県が製作した動画を再編集し、字幕を付けた映像で詳しく紹介したうえに、昨秋に韓国 JTBC のテレビ番組で芸能人が訪れた際の天城のわさび沢の様子なども紹介したので、学生たちも興味深く感じていたようだ。

なお、この2つの授業では、3月末に当事務所が製作・完成させた韓国人向けのPR映像も紹介した。YouTubeにもアップしたのでお時間のある時に御視聴いただければ嬉しい。



ショート ver. ロング ver.

経済

定着しつつある？静岡ゴルフツアー

ゴルフ好きが多い韓国人。コロナが明けてからは、プレイ料金が安い自国を避け、北海道や九州を中心に日本国内のゴルフ場を訪れる韓国人のプレイヤーも多い。そして、九州に飽き、富士山を見ながらゴルフがしたいという需要が出てくるにつれ、ゴルフ専門の旅行会社から当所への問い合わせも増えた。特に昨年12月以降は相談も急増し、当所としても空港振興の一環で、独自に韓国人プロゴルファーのYouTubeチャンネルを通じたプロモーションも行った。これらの甲斐もあってか、4月に入り、販売好調なため引き続きゴルフ旅行商品の販売を継続していくというエージェントの声も入った。うまく定着してくれれば心強い。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

行政

ソウルのど真ん中で静岡県をPR-ソウルフレンドシップフェスティバル

5月24日から26日までの3日間、ソウル市が主催するソウルフレンドシップフェスティバル（別名：ソウル世界都市文化祝祭）が、ソウル観光の中心・光化門広場と清溪川沿いで開催された。各国の大使館などがブースを出す小さな万博のような国際色豊かなイベントで、日本としては、本県と北東北3県・北海道、長崎県の3つのソウル事務所が中心となり、JNTO（日本政府観光局）とCLAIR（自治体国際化協会）も加え共同ブースを運営した。

ブースは、日本の象徴として、横幅・縦幅いっぱいの駿河湾から望む富士山を正面背景のタペストリーとして採用。各地のパンフレットやマップを内部に配置した。場所柄、国内はもちろん、海外からの観光客も多数来場し、想像以上に多くのお客様にブース内部で静岡県マップを見せながら、お客様の好みに合わせて楽しみ方を紹介した。初参加のイベントだったが、オープンエアの貴重な会場でのPRの機会をくれたソウル特別市庁に感謝したい。

社会・時事

変化するSNSの活用方法

ソウルには企業等の駐在員、留学生、韓国永住者などで静岡県に縁を持つ人々で構成する静岡県人会がある。私はそこで事務局長をしているが、4月に新たに入会した会員からSNSに関して面白い話を聞いた。

20代後半の彼女は韓国語を学ぶ仲間とともに、夜景や城郭が楽しめる駱山（ナクサン）公園を訪れた。展望が素晴らしいカフェがあり、いわば映えスポットでもある。すると、一緒に行った語学学校の友人たちは、ほぼ全員がその場で個別にインスタライブをやり出した。特段有名人というわけではない。ただ、ライブを始めると、友達がそれに応じてコメントし、コメントに対し、生放送の動画で応じる。芸能人やインフルエンサーが行うそれと全く同じだ。ついには、別々にやってたインスタライブにそれぞれと一緒に映り盛り上がっていたようだが、彼女自身は戸惑ったようだ。聞くと、友人たちの国籍は日本、コロンビア、タイ、フランスと国際色豊かな面々で、18歳から24歳、いわゆるZ世代に該当する。

事務所でこの話題をしてみると、韓国人の場合も同じらしい。小学生も含む最近の若者たちは、インスタグラムで様々なコミュニケーションをする。私達は仲間との意思疎通にはLINEを使うし、韓国人の場合はカカオトークを使うが、若年層は友人や親との意思疎通にもインスタグラムを使う。情報収集をし、日常もアップするし、ライブもする。@マークを使い相手をメンションすると、そこからダイレクトのメッセージのやり取りが始まる。私はそこまでインスタグラムを使いこなしていなかったもので、驚きつつも感心した。

韓国の情報通信政策研究院が5月21日に公表した「世代別SNS利用現況」報告書によると、ミレニアル世代（25～38歳）57%とZ世代（9～24歳）の66.9%が主にインスタグラムを利用し、X世代（39～54歳）がインスタ（36.5%）、ネイバーバンド（22.5%）フェイスブック（19.9%）と多種類のプラットフォームを利用するのとは異なった。また、Z世代の29.7%はSNSで毎日コメントをつけたり、いいねを表示し、14.2%は毎日新しい書き込みをアップし、13.2%は他人の書き込みを共有するなど、他世代に比べSNS利用が最も積極的だということから、なるほどと頷ける。コロナ禍の約3年間で情報の入手、活用、共有方法が変わった。我々が観光やトレンドを発信したり、行事を行う際等には気に留めておく必要がありそうだ。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

行政

韓国における生ごみ排出方法と再利用の現状

静岡県は日本国内でも県民一人当たりのごみ排出量が少ないが、日本自体は世界的にみてリサイクル率が低いと言われている。その大きな要因の一つが、生ごみの処理である。日本では家庭から出る生ごみのリサイクル率は6%程度であるが、ここ韓国は、何と97%になる。この差はどこから生じるのだろうか。韓国の集合住宅の場合、通常、1階などにゴミ捨て場が設置されており、主に「一般ごみ」「生（飲食物）ごみ」「資源（再活用）ごみ」に分けられている。「一般ごみ」は日本のように「燃えるか燃えないか」でなく、いわば「再活用できないゴミ」の事を指し、区や市ごとに指定された従量制ごみ袋を買って、それに入れて捨てる。資源ごみは、透明のペットボトル、色付きのペットボトル、発泡スチロール、段ボールや紙ごみ、瓶、缶などに細かく分類して捨てる。多少の違いはあるがここまでは日本と似ているともいえる。しかし、「生ごみ」だけは大きく異なる。

「生ごみ」は、2013年から重量に応じて各家庭が負担する従量制の課金制度になった。生ごみを捨てる際には、個人ID（住民登録番号や外国人登録番号。日本でいうマイナンバー）と結びつけられた専用の「飲食物ごみ（生ごみ）従量制カード」が必要となる。このカードはマンションの管理室などで購入できるが、購入に際しては全国共通のRFID（飲食物ごみ管理システム）ウェブサイトで世帯ごとに登録する必要がある。登録に際しては、氏名、携帯電話番号、Eメールアドレスなどの個人情報を入力する必要があるが、韓国では携帯電話番号が個人ID（住民登録番号や外国人登録番号。日本でいうマイナンバー）と原則結び付けられているため、これにより捨てた人が特定される。こうして登録されたカードを生ごみ専用のRFID機器にタッチすると自動でゴミ箱の蓋が開きそこに生ごみを捨てるのだ。

閉じるボタンを押すと生ゴミの重量が計測され、課金額が算出される。1kgあたりの金額は自治体ごとに異なり、例えば仁川市延寿区は63ウォン、ソウル市永登浦区は130ウォンだ。算出された生ゴミの課金額は後で他の共益費とともに管理費としてマンションから請求されるという仕組みだ。従量制のため、なるべく生ごみを減らそうというきっかけにもなっている。

こうして集められた生ごみは飼料や堆肥として再活用されているという。

ここまで書くと、完璧な仕組みに見える。実際私もそのように最初は思っていたが、現実にはそう簡単ではないようだ。韓国の生ごみは飼料とするため貝殻、たまねぎやにんにく等の皮、肉や魚の骨、野菜の根などは入れてはならない。収集された生ごみは資源化施設に運ばれ、不純物を取り除き、高温殺菌や乾燥、粉碎の過程まで経て粉状のリサイクル飼料になる。しかし、これをえさにして育った豚の豚肉には、食べ物のかすのにおいなどがしみ込んでしまう場合もあるようで、価格が落ちてしまう。このため、リサイクル飼料を買って育てようという農家は4%程度で、あとは無料で配布されている。堆肥にしても、耕作面積の減少で十分な利用が期待できないし、バイオガス燃料としての活用もまだ施設不足などで難しいという。

まだまだ課題は多いが、この仕組み、日本政府や自治体・企業等が研究する価値は十分にありそうな気がする。韓国でも新しい技術やアイデアが生まれる余地がありそうだ。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経済

日中韓の相互理解促進～インフルエンサーによる県内取材をバックアップ

昨年末、韓国ソウルに本部を置く日中韓三国協力事務局（3か国の外務省が協力運営する国際機関）からありがたい話をいただいた。「日中韓の3か国に影響力を持つインフルエンサーを選定し、東アジア文化都市に指定された静岡県に派遣・取材し発信してもらい、三国の相互理解促進を図る」という話だ。地道な調整の末、当事務所が取材先の推薦やアポイント調整を行い、県庁にアテンドや車両提供などの協力を仰ぎつつ、5月から6月にかけて、インフルエンサー4組が、無事に県内各地を取材した。11万から250万人のフォロワーを持つ影響力の高いインフルエンサーだ。映像が一部アップされたので紹介する。

藤井美菜



李姉妹 ch



都市研究所



社会・時事

読書と韓国人

活字離れが進んでいるとよく言われる。事実、韓国の文化体育観光部が4月に発表した「2023 国民読書実態調査」によれば、紙媒体・電子媒体・オーディオブックのいずれか1冊でも読んだ人を指す「総合読書率」は、成人の場合、10年前の72.2%から、何と43.0%にまで下がってしまっている。10人のうち約6人は本を全く読んでいないということだ。

一方で、小中高生はしっかり読んでいる。昨年も95.8%で、10年前から1%低下した程度。むしろ2021年に91.4%まで下がったが、急激に回復している。学生だから1冊くらい読むのは当たり前だろうが、読書量も36冊とかなり多い。一方の成人は3.9冊しか読んでいない。

実際、出版社の売上及び営業利益はともに低下しており、韓国国内の出版社（293社）の2023年の売上合計額は1,556億ウォンで、前年比で4.8%減っており、営業利益の合計は246億ウォンで、前年比8.9%減っている。

出版・図書販売業界がこのように苦しい中、意外と好調な動きを見せているのが独立書店だ。近年、个性的でおしゃれな書店やブックカフェなどが次々と誕生している。建築家や芸術家とコラボレーションした書店や、古い建物をリノベーションした書店、テーマ性を重んじ個性豊かな図書を集めた書店やカフェなどが、首都圏のみならず、自然がいっぱいの山奥や漁村などにも点在する。

先日、ソウルの中心に位置する景福宮の西側、西村（ソチョン）と呼ばれるエリアを訪れた。オシャレなカフェやギャラリーなどがあるエリアでもあるが、本に拘った店も多くある。ソウル最古の「デオ書店」のレトロさは他にない個性を放っているし、景福宮のすぐ横にある「IRASUN」は写真集に特化した書店だ。デジタル化が際立つ今だからこそ、アナログの紙の本の持つ質感や空間全体を楽しんだり、本を読むくつろぎの時間を大切にしたい若者が増えているようだ。ちなみに韓国人は日本の小説も大好き。東野圭吾や村上春樹は特に人気だ。

そのようなブームを先取りした形なのだろう。昨年来、当所と協力しながら様々なテーマ性を持った旅行商品（例えばトレイルランニングやマラソン大会、キャンプやスケッチなど）を開発している旅行会社「インターパークトリプル」社は、「ブックトークホリック 静岡4日」として、女優と一緒に回るブックトークヒーリング旅行の商品を販売している。ただ、今のところまだ予約は入っていない。やはり読書の旅行商品は8月でなく秋が良いと思う。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

「猛暑」「地震」「台風」…自然の猛威にさらされた夏

チェジュ航空が運航する仁川―静岡路線の昨年度 1 年間の搭乗率は平均 85.0%と好調を維持した。同路線は昨年 3 月末に週 3 便で運航開始し、同 10 月末から現在まで週 7 便、つまり毎日運航している。曜日に左右されることなく、往路復路の便を選択できることは、一利用者としても本当にありがたい。昨年の春は週 3 便だったわけだが、週 7 便で定着した今年 4 月以降も、6 月までの平均搭乗率は 85.1%と好調をキープしている。しかし、7 月になると 80.6%に下がり、8 月は 79.5%と今年初めて 80%を割ってしまったが、これにはおよそ想像がつく理由がある。

7 月は間違いなく「猛暑」だ。昨年も 7 月半ばに県内で猛暑が続いたし、今年は静岡市内でも 40 度を記録した。日本全国、「最高気温が 35 度ならマシかも」と言えるほどの状況となっていたので、旅行先としての日本全体の魅力が相対的に落ちた時期ともいえる。韓国も暑かったが「ここより 5 度暑いのか!」と思った方は一定数いただろう。

8 月に入って影響したのが日向灘における地震だ。韓国国内でも「南海トラフ」という言葉とともに、それが影響を及ぼす可能性のあるエリアの地図などもニュースに登場していた。神奈川県で地震が起きたのも大きい。日本人も一時かなり心配したし戸惑ったのだから、大きな地震が起きない韓国の方にとっては、旅行を控える理由としては十分だ。実際、ハナツアーなどの大手旅行会社のパッケージ商品には多数のキャンセルが出た。今は少し落ち着いてきたとも言うが、9 月の秋夕（旧盆）5 連休の旅行キャンセルは相当数あったようだ。

8 月にはこれに加えて台風があった。しかも、7 号と 10 号の両方が影響した。9 月に入ってから「中旬に行きたいんだが、日本は台風は大丈夫か?」という問い合わせが事務所にも入っている。

だが、これだけ悪材料が揃ったのに、それでも約 80%の搭乗率だ。やはり韓国路線の好調は際立っていると言える。これから秋を迎え、富士山の美しい冬の時期がやってくる。ゴルフ専門旅行会社からは「冬でもゴルフができる静岡県」と、その温暖さに太鼓判を押されている。

今後も引き続き多くの人々に静岡路線を利用し、本県を訪れてほしい。

社会・時事

高校生がモンゴル・韓国を訪問

当事務所は韓国とともに、モンゴルとの交流に関する事業を支援することがある。8 月 4 日から 9 日に富士山静岡空港を出発したフンス航空のチャーター便には、県内の高校生の一団がこのチャーター便に乗り込み、県の友好協定先であるモンゴル国のドルノゴビ県を訪れた。私は副知事を筆頭とした行政団の一員として同県を訪問した傍ら、高校生たちの交流の様子を眺める機会に恵まれた。草原のゲルを訪問し、現地の食を食べ、地元の高中生とモンゴル文字の書道で交流し、地元のお祭り「ナーダム」を見学し、ラクダや馬とも接触した。この機会がなければ一生できなかったかもしれない体験だろう。先月には韓国の忠清南道の韓国 K-POP 高校を訪問しダンスを一緒に練習し、別れ際には涙を流す高校生たちにも出会えた。中高生の頃に接する海外の経験は貴重であることを改めて実感した。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

社会・時事

日韓交流おまつり in Seoul にて静岡県をPR

日韓国交正常化40周年となった2005年に初めて開催され、その後毎年開催されている「日韓交流おまつり」が、9月22日、ソウルで開催された。

昨年は天竜浜名湖鉄道株式会社と劇団静岡県史が来韓・参加し、当事務所の静岡県ブースと共同でプロモーションを展開したが、今年は、伊豆半島の13の市町で構成する美しい伊豆創造センターの職員の方々が参加し、静岡県ブースを訪れた数多くの来場者に静岡県と伊豆半島の魅力を共同で紹介した。本県の様々な地域の観光情報は、当事務所が運営するNAVERブログやインスタグラムで韓国語にて提供されている。数多くの韓国の方々に静岡県の良さを知ってもらうため、このブログやインスタのフォローキャンペーンを実施したり、富士山を背景に富士山の着ぐるみや帽子をかぶって撮影できるフォトゾーンを運営したところ大変好評で、特にフォトゾーンは笑顔に溢れ、数多くの来場者に楽しい思い出を提供できたと言える。ステージパフォーマンスを行った「アバンギャルディ」のメンバーや日本の有名コスプレイヤーの方々も一緒に楽しんでいただいた。その一方で、観光パンフレットやマップを使い、丁寧に旅行案内をすることもできた。このイベントは、日本と韓国の方々が互いに関心を持って集まる行事として、非常に独特で貴重な機会だ。今年もよいプロモーション、交流の場になった。

他に伊藤園や日本航空などの企業ブースや着付け体験、コスプレなどの文化体験ブースのほか、今年は日本の地方も多数出展しており、本県以外では、北東北3県&北海道、宮城県、福島県、新潟県、滋賀県、鳥取県、島根県、松山市、山口県、長崎県が参加した。この中で、松山市は姉妹都市である平澤（ピョンテク）市との合同ブースとなっており、日韓の自治体交流が正常に推進されている様子もうかがえた。

伊豆地域の観光を推進する美しい伊豆創造センターは、翌日から旅行会社へのセールスも併せて実施した。日韓交流おまつりは来年以降も引き続き実施される。特に来年は日韓国交正常化60周年の年となるので、多くの関係者にこの行事を活用していただければ幸いである。

経 済

韓国のスタートアップ企業と面談

9月10日に大韓貿易投資振興公社（KOTRA）にて開催された「日本自治体DX実証実験進出戦略説明会」という行事にて静岡県を紹介し、日本進出を希望する韓国のスタートアップ企業と面談する機会を得た。70社以上、100人以上のスタートアップ企業が集まるこの会議には、本県のほか、渋谷区、横浜市、名古屋市、神戸市、沖縄県が招待された。午前中はKOTRAから日本の自治体や企業のDX推進の現況や市場としての可能性、進出の注意点などが丁寧に説明された。また、参加自治体によるアピールタイムも設けられ、本県は産業イノベーション課室長が、静岡県の産業構造や地域特性、支援策などを紹介した。

午後からは、静岡県に関心を持った8社のスタートアップ企業と面談し、各社の狙いや特徴などを伺いつつ、本県への進出や協業の可能性等につき意見交換した。聞いてみないとわからない分野も多く、個人的にも勉強になったが、自分のできる範囲で関係する機関や企業と繋げていければと考えている。静岡県への進出を検討している社もあったので、引き続きフォローしていきたい。

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

日本の自治体・企業が注目した「トラベルショー」

10月4日から6日までの3日間、ソウル特別市江南区のCOEXで開催された「トラベルショー」に静岡県ブースを出展し、期間中訪れた多数の韓国人に県内観光地の情報を届けた。

この「トラベルショー」は成り立ちが面白い。もともとは韓国最大の展示場「KINTEX」（京畿道高陽市）で開催されている「メガショー」という韓国最大規模のBtoC総合物産展示即売会だった。非常に集客力の高いイベントであることから、2021年よりその一部として「トラベルショー」が併設された。当初は物産とのコラボレーションがあることが特徴で、これに目を付けた本県は、県産生わさびの即売ブースを設置しつつ目の前で観光プロモーションを行い、相乗効果を得た。今年のトラベルショーはメガショーから完全独立し、一般客の集まりやすいCOEXを会場として行われたため、当時と比べると大きな特徴の変化が見られた。

まず、物産即売目当ての客はいないため、来場者数は以前ほどではない。2021年11月は8万5千人だった来場者に対し、今回は5万人だ。一方、明確に旅行情報を集めに来ている客ばかりのため、ブースにおいて受ける質問も具体的なものが多く、「来週静岡に行く」「1月に行く予定なんだけど」など、既に行くことが決まっていた情報収集に来ている人も珍しくなかった。私たちが本来情報を届けたい人々に、届けたい情報を詳しく説明できる場所という意味で、非常に出展の甲斐があった。加えて10月末からチェジュ航空が運航する仁川―静岡路線に午前中の便が新たに登場し、週11～12便となったため、航空路線のPRとしても有効だった。

さらに一番の特徴は日本の自治体・企業の出展が圧倒的に多かったことだ。日本企業では本県ブースの目の前に「星野リゾート」が巨大なブースを構えた。最終日夕方には星野社長自ら登場し、トークセッションで注目を浴びた。自治体としては、北東北3県と北海道の共同ブース、茨城県、愛知県、三重県、滋賀県、広島県、香川県、徳島県、沖縄県などが出展しており、法被を着てグッズも配布しながら積極的にPRを行っていた。特に広島県は空港振興部門と周辺基礎自治体、空港運営会社が共同で出展するなど韓国路線の好調を背景に積極的な姿勢が窺えた。一方で、中国からの出展は皆無で、日本以外の海外からの出展が少なかったことに物足りなさを感じた。積極的だったのはモンゴル。近年、韓国人観光客で潤うモンゴルはゲルや民族衣装、民俗音楽を前面に出したPRとともに、専門旅行会社による旅行販売・相談も実施していた。韓国の旅行会社のブースでも、あまり有名ではない旅行目的地をPRしながら、PCの前に座ったオペレーターが来客に対し旅行相談に応じつつ、商品を直売する方式が目立った。「メガショー」から始まった「トラベルショー」らしい特徴が表れているのかもしれない。我々も今後はより具体的で、来場者の旅行プラン生成に寄り添うような形式での出展が面白いかもしれない。シン・トラベルショーは、私にとっても新しいイメージが膨らむ展示会となった。



南米、アフリカなどの旅行商品相談を実施する韓国旅行

韓国駐在員報告

駐在員：高橋 誠

経 済

COEX FOOD WEEKに出展

毎年この時期に開催される「COEX FOOD WEEK」に今年も静岡県ブースを出展した。会場となったCOEXはソウル市内で最も大きい展示場で経済の中心地・江南（カンナム）に位置する。今回は11月20日から23日までの4日間開催され、31か国1,054社1,846ブースが参加し、6万2,000名を超えるバイヤーや観覧客が足を運び、成功裏に幕を閉じた。

中でも、海外からの出展が昨年比で約10倍増加した。日本からは3ブースに拡大して出展した本県以外にも、北海道庁が単独で出展し、JETROや沖縄県、北東北3県・北海道などソウル事務所を有する自治体や群馬県の味噌の組合などが出展し、日本エリアを形成した。

本県から新たな商流を求めて出展した県内企業は10社30商品に及ぶ。韓国で人気のわさび製品のほか、茶関連製品（お茶は関税が513.6%と高率のためペットボトルや他の成分も含む粉末茶）、塩、菓子、ふりかけ、酒など多種多様な商品につき、訪れるバイヤーに感想を求めたり、商談を行った。特にわさび製品やふりかけに関心を持つ業者が多く、今年の特徴としては昨年に比べて真剣に輸入を考えてくれる業者が多かったことが挙げられる。

この展示会はバイヤーとの商談ができるほか、一般来場客に対してPRや販売も可能であるため、輸入業者の協力を得て、既に韓国に輸入済みの根茎わさびやわさび製品の販売コーナーで「静岡県＝わさび」のPRを行い、併せて食を中心とした観光情報を映像やパンフレット配布等により情報発信も行った。わさび製品の販売は、1日に多い日で40万円以上の売り上げを記録するほど来場者の購買意欲は旺盛で、東北のブースで販売していた日本酒も最終日には売り切れてしまっていた。また、この展示会は旅行PRの場としても有効で、ある来場者は、「体験を含む団体研修旅行を例年東京で実施していたが、静岡に行きたいので、茶やわさびの体験ができる施設や情報が欲しい」とブースを訪れるなど、まさに食と観光プロモーションがうまく折り合った形でPRできたことは新しい成果だ。日韓の食の交流にますます期待が膨らむ。

社会・時事

不意の大雪で混乱の韓国を実体験～民間国際交流有功授賞式で忠清南道訪問

11月28日、韓国中西部に位置する忠清南道庁にて「忠清南道―日本民間国際交流有功授賞式」が開かれた。本県からは基金創設以来、長年全国の民間交流事業を支援してきた戸塚進也（公財）日韓文化交流基金理事と朝鮮通信使を題材とした行列や演劇などを通じ、日韓の民間交流に長年取り組んできたNPO法人AYUドリームが授賞し、私も活動支援を行った。

ところが、入国日の27日は11月として117年ぶりという大雪が襲来した日であった。大幅に想定外の大雪により、朝から各地で大混乱となりソウル郊外に住む当所スタッフは交通麻痺で一旦自宅に戻ることとなった。何とか私や道庁職員と合流し静岡県一行を出迎えたものの、他県の授賞者が着陸後機内から出られず仁川空港で3時間以上待機する羽目に。全員集まり大型バスで移動開始したが道中は徐行運転、事故車で大渋滞が発生、2時間以上経過しようやく休憩所に到着したもののトイレは遠く、降雪の中杖を突いて歩む高齢の授賞者には辛い移動となった。降る雪も強く前が見えなくなるため車内は暖房も十分にかけられず、寒い中まだかまだかと待つこと4時間、ようやく夕食となり、ホテルに到着したのは24時前だった。

幸い忠清南道南部は雪もなく、授賞者は金泰欽（キム・テフム）知事から感謝牌を無事授与された。一番苦勞されたであろう忠清南道庁の職員と運転手さんには特に敬意を表したい。